



府内ではリハビリテーションのネットワークづくりがすすめられ、その中心となる京都府リハビリテーション支援センターも動き始めました。他の地域に先駆けて活動してきた、中丹地域リハビリテーション支援センターの小幡さんにお話を伺いました。

大切なのは従事者同士の連携です

地域リハビリテーションとは、リハビリを必要とする方が、住み慣れた環境でいきいきと暮らせるように、専門家や家族、介護者が連携して支援する仕組みのことです(特集1参照)。病院やリハビリ施設などが情報を交換し合い、技術の向上を■るなど、従事者間でのネットワークづくりは以前から求められていました。

「もともと中丹地域では病院同士の交流が深く、ネットワークづくりに適した下地はあったんですよ」と小幡さん。センター設立の準備から平成15年の運営までには、さまざまな苦労もあったといいます。「府内で初めての取り組みということで、他の地域のモデルとして責任を強く感じました。また、リハビリを専門とする施設や人の数が少ないなど、当初は理想通りにすすまないことも多くありました。でも、地域の状況をきちんと分析すれば、利用者がサービスを受けやすいネットワークを組み立てていくことはできるんです」。

小幡さんは舞鶴赤十字病院でリハビリを担当する理学療法士です。支援センターの設立に際して府から■羽の矢が立てられたのですが、それには病院の理解があったのはもちろんのこと、同僚にも大いに助けてもらったそうです。

「家庭でのリハビリでも、専門家のわずかな助言で大きな効果が上がることが多々あります。研修会には看護師さんや介護士さんも数多く参加されていますので、在宅や施設サービスでの技術は向上していると思いますよ。それにリハビリの重要性に対する意識が高まりつつあるのを感じます」。

支援センターから遠い地域ほど相談件数が少なくなるなど、課題はあると話す小幡さん。地域リハビリテーションのさらなる充実に向けた取り組みはまだまだ続きます。



【おばた しょういち】

1966年、京都府生まれ。1988年から理学療法士として従事。1995年からは舞鶴赤十字病院に勤務。

[◀府民だよりTOPへ](#)

[バックナンバーへ](#)

[京都府
広報課]

[次へ▶](#)

TEL:075-414-4074 FAX:075-414-4075
〒602-8570 京都市上京区下立売通新町西入

Copyright (C) Kyoto Prefecture. All Rights Reserved.